

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（招聘）  
授業・セミナー開催報告書①

報告日：2019年 3月 5日

招聘者氏名	上杉 裕子
被招聘者氏名	Dr. Kanittha Rattanakanlaya, Dr. Rangsiya Narin
被招聘者 所属機関・職位	Faculty of Nursing, Chiang Mai University Assistant Professor
日時	2019年3月1日 13時-16時30分
場所	神戸大学大学院保健学研究科 B204
参加者	全員 12名（うち女性教員4名、女性院生5名、女性学部生2名、男性院生1名）
授業・セミナーの内容 保健学研究科において、「国際看護セミナー— アジアの健康課題を共に考える—」を行った。 第1部はタイ国チェンマイ大学看護学部講師からの講義とし、 Dr. Kanittha Rattanakanlaya, Assistant Professorより「Disaster preparing for nurses」 Dr. Rangsiya Narin, Assistant Professorより「Elderly knee patients in community」の講義をいただいた。 第2部として大学院生の研究紹介とし、パブリックヘルス領域博士後期課程の北川恵より「胃切除術後患者の食事摂取における問題と課題：The problem and task of food intake for post Gastrectomy patients」 パブリックヘルス領域博士後期課程の佐野かおりより「日本における股関節症患者の研究動向：Research topic of hip patients in Japan」の研究紹介を行った。講義後には参加者全員でディスカッションを行った。日本も災害が多い国であり、保健医療システムにおいて、いかにその準備が重要であるかが共有され、タイ国で行われている実際の病院での災害準備についての質問なども出された。日本人若手研究者との充実した交流が得られた。Rangsiya Narinと佐野かおりのトピックは、運動器疾患を持つ高齢者という共通点もあり、お互いの研究の発展に向けて、活発に意見交換がなされ、将来の共同研究への可能性も示すことができた。	

ダイバーシティ事業 国際人事交流プログラム（招聘）  
授業・セミナー開催報告書②

報告日：2019年 3月 28日

招聘者氏名	種村 留美、上杉 裕子
被招聘者氏名	Dr. Lena Rosenberg <sup>1)</sup> 、Dr. Gabriele Schwarze <sup>2)</sup> 、 Dr. Hsiu-Yun Hsu <sup>3)</sup> 、Dr. Patcharee Woragidpoonpol <sup>4)</sup>
被招聘者 所属機関・職位	1. Division of Occupational Therapy, Karolinska Institutet, Assistant Professor 2. FH Joanneum University of Applied Sciences, Head of Institute and Degree programme Occupational Therapy 3. National Cheng Kung University, Clinical Assistant Professor 4. Faculty of Nursing, Chiang Mai University, Associate Professor
日時	2019年3月22日 13時-17時
場所	神戸ポートピアホテル 和楽
参加者	全員 83名（うち女性教員15名、女性院生18名、女性学部生 6名）
<p>シンポジウム内容</p> <p>神戸ポートピアホテル、和楽において、国際シンポジウム 「The Support for Gender and Vulnerability of the aging society 少子・高齢社会のジェンダーと脆弱性サポート」を行った。</p> <p>第1部は、「The support for elderly in Sweden」のタイトルで、Dr. Lena Rosenbergより基調講演をいただいた。スウェーデンの高齢者ケアの特徴が詳細に紹介され、自宅でのケア、施設でのケアの特徴が示されていた。</p> <p>第2部は「語る・つながる少子高齢社会」と題され、日本人を含む4人のシンポジストより講演がなされたが、そのうち3人は被招聘者Dr. Gabriele Schwarze、Dr. Hsiu-Yun Hsu、Dr. Patcharee Woragidpoonpolであった。</p> <p>Dr. Gabriele Schwarzより「Supporting the Ageing Society in Austria」のタイトルでオーストリアの高齢化の現状と、独居高齢者、ケアの必要な高齢者、ケアギバーに向けての介入などが紹介された。</p> <p>Dr. Hsiu-Yun Hsuからは「The contexts of the women researcher and the support system for elderly in Taiwan」のタイトルで女性研究者の困難性について数字を示しながら課題を提示され、女性研究者のための取り組みの重要性が示されていた。台湾の認知症高齢者へのデジタルデバイスを用いた介入研究なども紹介された。Dr. Patcharee Woragidpoonpolからは、「Development of empowering early childhood primary caregiver capacity program in skipped-generation family: grandparents raising grandchildren in Thailand」のタイトルにより、働く両親が不在になり高齢者が子育てを担うことの問題と取り組むべき課題が示され、高齢者の問題を家族の枠組みで検討することの重要性が示されていた。</p> <p>神戸大学保健学研究科の教員、大学院生、学部生が多数参加し、作業療法学、看護学の双方からの意見交換に加え、お互いの研究の発展に向け活発に意見交換がなされ、将来の共同研究への可能性も示すことができた。</p>	